

Dr's VOICE

さとう脳外科クリニック様

術前から術後まで、クリニックならではの信頼の医療を。

脳外科医として 30 年あまり医療活動に携わり、2006 年10月にこのクリニックを開院。脳動脈瘤や脳腫瘍手術の技術の研鑽に努めながら患者さんに接するなかで、人間的な信頼関係の必要を強く感じたことが、開院の理念となりました。現在の医療では、治療の段階によって、患者さんと医師が点と点のおつきあいになり、脳外科も手術をする場という役割が主になっています。しかし、たとえば未破裂動脈瘤の手術の判断など、治療方針を共に悩み相談しなければならないケースも多く、術前の「インフォームド・チョイス」を非常に大切な診療活動として、時間と労力を注がなければなりません。当院は、術前から術後のコンサルトまで、個人医院だからこそ実現できるトータルな医療を信条としています。患者さんとじっくり向き合って納得がいくまで話し合い、術後もきめ細やかにケアしていくことで、手術成績も確実に向上します。患者さんに信頼・安心いただける診療、その人に合った情報や治療の提供、それが真に質の高い医療であると考え、日々取り組んでいます。



住所	広島県福山市大門町 3-28-43
開院年月	2006 年 10 月
導入装置	SOMATOM Spirit (SIEMENS) MAGNETOM Symphony (SIEMENS)

メディカ・ラインの力強いサポートで、思い描いた病院を実現。

クリニック開業を決めた時、場所と建設は地元の知人に相談できたものの、医療機器や設備などの準備はノープランでした。数社の開業コンサルティング会社から話を伺いましたが、設備機器や運営システムなどがあらかじめパッケージ化されたプランがほとんど。これでは思い描くような病院作りはできない。そこで相談したのが、メディカ・ラインの佐藤望社長でした。学会で一度お会いした時の、あたたかな人柄を思い出しました。佐藤社長は、まず参考になればと、函館で開業間近という病院の見学をコンダクトくださり、脳神経外科開業のさまざまなスタイルや事例を挙げて親身にアドバイスくださいました。医療機器は各社の製品機能でフェアに決めたいという私の要望にも、各メーカーを紹介・セッティング、そして決定した機器の購入は病院の側に立って交渉しますとの力強いお言葉。私になり代わって動いてくださり、本当に安心して任せることができました。おかげで、CT、MRI、リハビリ器具など必要な設備機器をすべて整えてスタートできました。



開業は“はじまり”、運営のよきパートナーシップのありがたさ。

今思えば、メディカ・ラインの佐藤社長なくして当院の開業は難しかったでしょう。それから 5 年を経た現在、さらに強く思うことは、病院運営のよきパートナーであり続けてくださっているありがたさです。開業時はいかに苦労が大きくてもまだ“はじまり”であり、肝要なのは運営の継続です。医療機器のメンテナンスや、新しい機器の導入。日々の医療活動や経営。今も変わらずメディカ・ラインが当院に不可欠な存在として、ともに歩んでくださっています。開業医はどうしても業界の横の連携が少なくなってしまうなか、さまざまな医療情報を持ってきてくださったり、どんなことでも相談ののってください。自分にとって心から信頼できる存在、頼りがいのあるパートナーがいることは、大きな安心です。はじまりから今日まで、開業医のストレスや負担を抑えようと懸命に動いてくださるメディカ・ラインに、あらためて感謝しています。